838
297
116

武武武
川者蔵藤

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

藤原
武藤 本國上野 敘下野守

安高 武藤三位大道
住斯波家
自上野回上京

安清 武藤彦右衛門尉
居二好修理支之孫

安成 武藤理兵衛
安成弟
住增田右衛門尉長盛為幸高後
郡山 增田長盛誠與干石田三成再之誌之既關原亂起安成
忙恐実欲誅長盛 長盛不可也於是安成辭食祿熟居

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

武藤 為重 本下野
又 〃 〃
又 〃 〃
武藏 源姓 本伊勢
武者 為氏 住陸
大弦 山本
武川 源姓 本国甲斐
宮者

安武藤理平治 安武 安成 母
住増田右京府長盛為事毒夜領二千石加俗四千石居大和州
郡山 増田長盛誠與下石田三成再之誌之既關原乱起安成
忙然実欲諫長盛長盛不可也故去安成辞食禄熟居

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

藤原
武藤

本國上野

安高 武藤三位入道

住斯波家
自上野回上京

安清 武藤彦右衛門尉

居之好修理亮之孫

安成 武藤理兵衛尉

住增田右衛門尉長盛為事奇役領二千石加俸四千石居大和郡
郡山 增田長盛誅逆下石田三成再之誅之既關原亂起安成
忙然失欲誅長盛長盛不可也於是安成辭官祿熟居

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

慶長五年庚子關原乱治後右衛門尉
大神君初召出賜知州四知四百石
大坂西度役倚奉當兵粮點檢元和二年四月大坂役
元和二年四月大坂役
台徳公勤仕方々御用
寛永四年丁卯四廿九死年
于就嶽宗成居士

武藤勝五郎　理兵衛

安成　安信　母　某氏女　慶長八年癸卯
于信濃飯地清心寺

寛永四年丁卯閏五月二十四日死
同九年壬申七廿六　召　歳命四遍御用
後為参勤之方曽根源左衛門同
寛文六年丙午十二月五死年
芳林寺

于四山嶽宗夢居士
妻

安之　武藤庄五郎
嗣

寛永十七年庚辰自二男新規被
召十九年壬申賜二百俵
正保四年丁亥十月為御材木
寛文五年乙巳七廿九死年
于大円院宗悳日境居士
妻

安勝　武藤仙之助　宇左ヱ門　清右ヱ門
母

寛文十年庚戌冬二月若少成寺
于清宵院妙浄日瑠大姉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

安郷 武藤熊次郎

母

寛保二年壬戌十二月三日自部屋住大御番本多兵庫頭組別賜二百俵
延享四年丁卯十月九日継目五百石
明和八年辛卯十二月四日西丸御切手御門番頭
安永 年 依病辞為寄合清水右京亮支配
天明五年乙巳 卒

妻 宝暦四年甲戌三七死年七十五同寺 号俊覚院妙理日達大姉
寛政元年己酉六月廿五死葬同寺 号蓮華院殿妙常日精大姉

女子 母同

山口千之助 妻 延享十二年生 寛十二年三月死廿六 安久成寺 号浄信院殿妙敬日悟大姉

女子 母同

安キ 宝保四年甲寅九月二日夭葬同寺 号妙勝童女

安 母

武藤頼母 始五郎助

宝暦二年壬申十二月廿七日自部屋住大御番
安永四年乙未四月十二日同組頭
天明五年乙巳十六日継目五百石依為西丸御老中御列座牧野越中守
傳之 同年十二月九日御鑓奉行

女子 母同

水野弥兵衛寄合妻 寛政三年辛亥十八死葬安久成寺 号浄心院妙持日敬大姉

安寅 武藤五郎助 能登守

女

寛政 年
享和元年二百十二年七ヶ大阪番
詰但年多在庫之祀

安道 武藤庄右衛門

寛永十九年三年 新規被召出御書院番
承應二年子年 組頭加百俵合二百五十俵
天和二年壬戌四月二加百俵合三百五十俵
貞享二年丑年 五人組支配仰付
元祿五年申年四月九死去
于輔林寺住居

安富 武藤庄十郎

元祿四年未年十一月五日 御屋住被召出
御小姓組 改住梅軒

御次番物頭傳之 役外御番料三百俵
同五年第七男二郎目三百五十俵 於菊間御次老中列座之席
加賀守傳ク
同六年従四位下 侍従 為御小姓ノ 同年十二月老中差添之奏者番兼帯
同七年改五九六大御番一ノ手ニ仍而辞之
宝永五年改五ノ一ノ手ニ仍而辞 為寄合肝煎 同年十二月
子孫 四年正月八日 為御目見以下 同年十二月 奥田惣右衛門
同五年閏十二月七歳仕之 梅軒
宝暦十年四月六日死亡 妻 先光寺

安興 武藤左大郎
母 山本傳左衛門
妻 井出出久之助 女
元禄十四年辛巳生ル
子供十五年壬午ヨリ十二月七日迄生ル
十二月七日 智三百五十俵 於菊間御次老中列座之席

正甫改 井出久之助
曾 子供十六年癸未ヨリ
井出八之助 正本筆者ト

安久 武藤儀助
曾 子供三年丙戌生ル
女子 曾 三宅藤四郎 為兄半之養子
安久 武藤儀助 為兄半之養子
曾 安久 室 同姓安庸二男
安庸 母

戸田山城守傳之 為小普請組
同八年癸卯 五ノ手ノ内番相勤
同十六年癸未六十四歳 病死
子 土岐源五郎 金龍寺

子保十六年辛未九五領目三百四十俵為中普請建部氏部文輔之配
同廿年乙卯四十六才大小番戸田右近将監祖
元文五年庚申四廿二為　四番御近習番寄合多之中書侍ス
同年壬七八為同如少生守加藤甲斐文守傳ス
寛延四年辛未十八才御近習自酒井右京亮侍従為中普請祖
川勝右京之祖
明和九年壬辰十月死年五十五番小屋川光五寺
号清信院殿好山了独居士
妻　石原助左衛門女　安永九年庚子二月死弁天五寺

安好　武藤　能太郎
母石原
妻

安永元年壬辰十二　領目三百五十俵為中普請祖
天明三年癸卯四九自川勝権之助之配大小番
同八年戊申五廿一為新四番坂部勘馬祖
寛政五年癸丑三月死

女子
母
明和四年丁亥十八久寄光五寺
号深心院清岸江月童女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

安秀 武藤庄兵衛

妻

寛文二年壬寅十二月十九日卒屋住大御中臈大奥勤仕
同五年乙巳二月廿三日
同七年丁未
元禄九年丙子十二月廿四日
元禄十一年戊寅十一月九日
于時年五十四
于梅福院殿花岳香屋
于猿楽寺

安英 武藤陸之助 庄兵衛

元禄六年癸酉十二月九日部屋住為御書院番青山播磨守組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同七年六月正五位下賜三百疋
同十二年六月廿日任日五百十五石
同十二年正月三十五但自所従勘出之
七判六十而
宝永七年六月九十八日小十之頭同年十二
同八年六月正五位下
正徳　年　　仍而降為高名
享保三年正月十九年　寿松院殿
子孫近藤勘左衛門清
寿近藤勘左衛門清
妻小出源左衛門娘　宝暦十年正月廿日於芳国社先但馬守像ク
子境致院殿推松慧眼大居士　寛政十年正月十九日於御殿
子本先院殿統室清昌大姉

安武　武藤陸奥守　庄兵衛　致仕陸奥守
妻近藤勘左衛門清
妻小出源左衛門娘

某
女子

文禄十六年正月六十九日
宝永二年乙酉四月八日於江陽寺

寺武　武藤
妻小出源左衛門娘
何物子孫

宝永六年己丑六月部屋住之時書院番
享保三年戊五月九百日五百十五石二人扶持
此先中断り至井上河内守傳之
同年七十住居中御役方銀馬代
宝暦　年　　為寛保書院番頭同年十二月卒
明和六年己丑十月九日　寿六十歳
于地峰院殿性翁民晴居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子
母四

武藤茂吾　庄兵衛

妻安藤伊豫守直之男
妻母

文和二年癸巳七月廿五日五百十五度手柄有之

武藤庄太郎

女子

天明五年巳三月二日
于花屋幻庵

藤原
武藤　李岡上野　改藤丸

妻名姓
武藤十郎兵衛

延宝二年甲寅　新規被
元禄十年丁丑三七日川船奉行同四年十月三日浅草御藏ニ
此米五十俵合場三百俵
同十二年己卯三月廿九日炎仰被金小判
宝永四年丁亥五月一ノ丁雨降為御普請組合貝田橋ニ
同五乙年戊子十
死

安
母

武藤平九郎

宝永五年戊子十月九日二百俵於菊間小老中御列座壹萬石
傳之為世嗣組入貞田播守組

安倍

武藤安之助　忠五郎　十郎兵衛

母

元文　年　　詰二百俵
元文六年酉二月六日小普請
寛保二年戌正月二為　刑部卿局御近習番後召抱寄合肝煎為
寶暦五年乙亥八月自分根方ニ而蕃医
天明四年辰十月七日於二條在番病死

安詳

武藤鉄之助　又四郎

母

天明四年辰十二月六日詰二百俵於菊間小老中御列座壹萬石
主殿助傳之為世嗣組
寛政二年戌五月七日自分屋敷ニ而
文化七年午十月二為　表御番
渡邊壽左衛門組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

藤原

武藤

巻四

佐丸裔羽

武藤南家進

玄道 武藤南家 [illegible]

玄壽 武藤中家

玄重 武藤中家文

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

武藤帝之進

玄亮

玄信　武藤七左衛門尉

天明七年丁未十二月九日自五十俵三人扶持
寛和二年庚戌三月七日小普請方改役
同三年癸丑十二月廿八日野間金吾ノ組
文化十一年甲戌
歿延享五年戊辰生

富武

文化十三年丙子改三四郎自五十俵三人扶持

藤原
武藤

武藤幸内

桜田普請奉行
後為小普請組
法心院君中陰勤番
元文元年申年
九

武藤大学助幸佑　始冨太郎

文文元年申年四月ツヽ間五十俵二
後御勇役
宝暦十二年午年
九十六

武藤傳右ヱ門　始冨太郎

宝暦十二年午年四月ツヽ間五十俵二人扶持
後大ツ番
寛政四年子年
天十九

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

武藤長之助
主明四年戊十一月六日卒年八十餘之仕持之間而田沼主殿助行
為主君詰但

源姓
武藏 李國伊勢 紋上明像

吉明 今井武藏守
生國伊勢
仕北畠國司時屢忠信長公
方勢州行之所而死之

吉正 氏井孫右衛門
生國同
仕信長公北畠中將信孝仕
天正十五年庚戌以來多佐渡守正信兩領始孝仕
方神君賜知行四百石
慶長五年子關原役得首級功故蒙御感

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

其後仕駿府家氏井武藏守氏井名字有還故以矢之名武藏
可爲本家之旨有御沙汰自是文子皆改氏井後改武氏

吉秀　氏井治部大夫　改武藏孫左衛門

以土井大炊頭殿御國替御加恩
五百五十石之内大御番
同十九人半扶持二百石

武藏孫之丞

卅

台德院殿大御番皆以此子孫
寛永元年至勤二百年勤仕
後御番御許可被成旨

慶安二年庚子八月七日　葬于顯了院燒山常真日運居士　葬于麻布泉岳寺

武藏五兵衛

卅

慶安二年庚子十二月一日自二百俵
明暦二年丙申八月七日　葬于本住院皃純日晴禅定門　葬于麻布泉岳寺

武藏孫之丞

卅

慶安二年庚子正月廿
万治元年戊戌五月十八日自二百五十俵
寛文七年丁未十二月二日大御番中間頭
寛文二年壬寅十二月二日　葬于麻布泉岳寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同四年丁卯十二月加二百俵合四百俵
宝永　年　　侍烈祠為寺請組
子保七年庚寅十六死年七十四葬
于浄書院覚意日真居士

寿

秀仲　武蔵孫十郎

母

寿法　養子　宗清女
延宝元年癸丑生
元文六年辛酉十二月九朔屋住人
子保七年庚寅十二月五日詔奉
和泉寺傳之
同十二年丁未八月二死年五十五葬
于浄雲院殿妻員日教居士

相州小嘉
元祖　四年壬辰十二月廿五日俵給之行
物　小笠原宗家元禄七年甲戌出雲寺宝永元年甲申
侍組之行統初出雲寺之所傳

寿　　養子

子保五年庚子正六死葬同
于浄雲寺始春日是大師

時元　寺井長十郎　甚右ヶ門

母同

女子　母同

戸田六兵衛忠勝家

為大御番寺井権右ヶ門時元
養子

忠勝三男　母側室百十郎等之姉
子保寿院殿去相ヶ崎大師

秀盈　武蔵岩之助　孫之亟

実父
実母

子保十二年丁未十一月廿日四百五十石内三百俵分家
御小姓水野和泉守傳之為小普請組
同十五年庚戌十二月七大御番
元文二年丁巳六月廿五日御書院番水野出羽守組

於菊山帰光中

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某
母
元文元年丙辰十一月一夭 葬菜泉寺
號澄蓮院殿慈月童子

某
武藏弥六郎
實ハ野澤伴次郎清儀男
實母 酒井雅楽頭艹藩 横田七左衛門女
妻 養父秀盈養女

秀峒
武藏主税
實ハ長谷川庄五郎忠崇二男
實母
宝暦十年庚辰六十六死 年三十二 葬菜泉寺
號園林院殿浄岡日巌居士

女子 母村上三左衛門女

女子
實村上三左衛門正秀女
實母山中丹後守女
養子武藏弥三郎 妻

秀義
武藏源之丞 孫之丞
實ハ
實ハ
妻 養父秀盈養女
天明元年辛丑四月五日家督四百五十五石於菊間御縁側老中御列座松平周防守
傳之為中奥詰 但松平志摩守組
同八年戊申十二月十八日大御番
寛政九年丁巳三月八日為御免新御番 酒井山城守組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

吉勝　武蔵傳喜蔵　甚五兵衛　以上有大理寺差図江傳喜蔵宅甚五兵衛

廿四

天文十五年丁未為大御番頭
慶長十二年丁酉依見御番勲
同廿年乙卯大坂役扈牧野内匠頭組供奉
寛永二年丙寅八十五死年
乃葬多磨霊山百昌院

吉次　武藤甚之助　甚五兵衛

母

慶長十七年壬子生
寛永二年丙寅八月二日卒後

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　ガラス使用

同五年四月六日卒牧野由正頭組
同十年壽二七歳加賀石今為松
正保二年二百四廿五石年三十四壽方昌院
于安玄院殿本宗道起居士

義高　母同　覺子

義高　武藏八郎右衛門尉
寛文
正保二年二百五十石
明暦元年十二月六日卒加賀山中渓之助但
寛文元年十月為小普請同
同十二年十月仰蒙為小普請組
元禄四年六月七日一陽居

元禄十三年庚辰二月九日
于正服院殿空翁徹宗大居士　葬于延慶山久宝山万昌院

吉次　武藏　母

天和二年壬戌九月九日卒万昌院
于覺石元了居士

義晴　武藏久之助　八郎右衛門　孫左衛門　源左衛門　源次郎
寛保二年十月十日
寛保部士佑寺　男　実母

自享保元年丙子十二十四蚕子
元禄四年辛未七月一日卒智詮童子
為十善法組　俗名田情岩組
同十三年庚辰正月九日大御番屋代秋中寺組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

寛保四年乙亥九七為神保四郎左衛門番頭
元文四年己未二組告花詩歌会二枚賞数年 御祭乃為七菓積
佐野吉之丞妻
同五年庚申十二月十七死享年七十一歳万昌院
弓熊峰院殿望誉義廓居士

義房 武蔵右門 内記 孫右衛門 于宝暦

寛水歌清十郎 三男
寛女

無事

宝永七年庚寅生
享保十六年辛亥十一月五 部屋住大御番松居下野守組与場番傳
元文二年丁巳四九為神保四郎左衛門番頭
同五年庚申十一月二 為 御祭番減野内膳助組
竹千代君御誕生

同年十二月八為神保四郎左衛門番頭
寛保元年辛酉二月晦日四百五十石
寛延三年庚午六七御納詩為 御祭番減野内膳助組
宝暦四年甲戌四月隠居于宗庫

義知 武蔵 傳次郎 孫右衛門

寛女曲淵市次郎昌貞二男
寛女多女

妻養父宝暦義房妻妹川十三郎女

于保十四年甲申生
宝暦二年壬申二十四等養子
同四年甲戌四月家督四百五十石 数寄屋御番衆中 御列座席
陽明寺傳ニ為十番詰但川勝左京亮妹

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同五年乙亥三月廿九日卒納戸
同八年丙戌七十九告病辞為小普請組川口能登守配
同九年丁丑廿五大小番頭大膳亮代人而小姓
免小普請組大坂在番代人而小姓
安永二年癸巳二十三於大坂死年四十五
于寿光院殿華岳宗泰居士

養子　嫁義智

寛瀧川十郎　女
室母甘露寺方長親女

義陳　武蔵　竜吉　八郎右衛門　十郎左衛門

母同姓宰相義房女

明和六年己丑五七朔日　御目見
安永二年癸巳四六騎目四百五十石
於菊間御老中御列坐松平周防守傳之為
同年四月六大小番大久保主膳正組
同七年戊戌閏七十五仍病免
天明二年壬寅四月二為新御番
同三年癸卯九十四仍病為小普請組
同六年丙午三朔六大小番堀田豊前守組
同七年丁未七十五仍病為小普請組
寛政元年己酉七五為甲府勤番
表六番町西丸副地罷在万五年仍病地甲斐守
同　年　致仕

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

武藏甘兵衛

義 ― 某 ― 女子 ― 女子

某 ― 某

某 ― 某

武藏守五郎

吉辰 ― 武藏守次郎 ― 某

實本多吉辰二男
母蒲生房

為水野猪之助
養子

女永七年六月十二日卒
于雲嶽梅松童子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

藤原
武者 本國信濃 紋九内花菱

満負 武者證文等
生國信濃
信州佐久郡大澤城

満安 武者右衛門佐
生國信濃
於高村止義清後仕信玄

安負 武者内藏助
生國上総
父満安後仕村上左衛門尉
村上左衛門尉
於高嶋時傷疵
永和九年癸亥於屋形
歿訂方御言殿中大番

宝永九年卒靍居
康安四年子和九年卒十三

宗貞　武者権守
母
生于徳州
天正十九年于千又隈討死
方神居住為大神書初于志十人宝
宝永九年三甲靍居
同十七年庚辰二月九討死于徳州武射郡松川也八十名卒塚
寺領令賜百三十石為御大寺奮
康安四年子打十四日　神西神殿十人徒多徒頭無官又而詳
隠居

宗安　武者守名乃
嗣
元和九年癸亥生
宝永九年壬申没于徳州大神書居為十人徒物百石
妻大熊伊賀守娘
浪人住上州群馬郡高崎堂醫

安子　武者平兵衛　改大熊氏　号大熊伊賀守
母大熊伊賀守娘
浪人住上州群馬郡高崎堂醫

女子

児玉喜山　壽　　法名杉田養安入俗号井田権之助

女子 上州高崎住浪人 山田治左衛門 妻 沢田左衛門母

某 平子唯四郎 為同藩平子七郎兵衛養子

某 山本藤左衛門 為山本藤左衛門子無之養子

山本彦八郎 改十七歳 母松平紀伊守家中 伊藤半左衛門女

女子 母同

山本藤左衛門

藤左衛門 子ナ無之 母山本吉兵衛女 享保年以前御年寄 但此但時為方 宝永七年十十三致仕

妻 江西右居住 因幡守作方 宮原源清女

女子 竹本時存卅

宮原源清 江西右居住 岩田半方 文九年卸知

安兵衛 中川何世守但右方十兵衛清 六左衛門

女子 母某女

女子 母同 山本藤左衛門妻

大熊林庵 嗣父休庵之家業励医術 住同郡越前寺 住越後国村上

大熊久左衛門

同 辰次郎

同 繁三郎

治種 安藤一学 母同 正徳三年為安藤織部信友聟養子 享保十六年辛亥十一月十五死

貞重 武者半右衛門 母同 為武者権次郎養子

武者小藏卿
良明

良武 武者權守卿 初仕默退

於神宮殿詣百三十度 為大妻清
文祿十年壬午七月三日卒于但時為少主仍不但同年十月三日卒
女婦百五十石 加七十俵
寶永元年甲申九月一日小主但馬守但初同年十二月廿五日卒
同九年丙子冬仍病辭為大妻清但初前伊豆守但移隱居于默退
于住十年乙丑七月二俵家斷絕一生婦月俸五口

妻 神尾伊豆守政子

武者助次郎 孝虎

良重 寛治八年大熊休菴女好男

寶永三年丙戌四十四歲于
正德五年乙未七十二 為智二百俵為大妻清初前伊豆守但
于住四年己亥六 死

武者權之助
女

于住四年己亥九月七日二百俵為大妻清但初前伊豆守但
同九年丙子八月二十六日卒無嗣斷絕

武者權兵衛

貞平
母

寛永十二年乙亥生
慶安四年辛卯十月十日 神田御殿於召出為十人組炒百俵
延宝八年庚申御代 同年為寄合
天和元年辛酉九月一日為十騎組
元禄十年丁丑 二十人組御徒傳之
元禄百五十俵
宝永元年甲申三月依願辞 稲垣對馬守傳ス
同二年乙酉七月七日致仕
享保元年丙申五月九日卒 年七十四 谷中

武者權大丈

安重
母

宝永三年丙戌七月七日家督百五十俵
為中奥詰組 松前伊豆守組
正徳四年甲午六月廿四日死 年
号

平秀
母

兄安重
養子

武者平藏

安重
実子

正徳四年甲午 歩三騎目百五十俵於御厩前為世上和平御守
十二月深川御守組
享保四年己亥十月十八日 本多雄權大丈組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

延享二年乙丑七九歳　享年
七

安道　武者権兵衛
母

寛保二年歳十二部屋住矣
延享二年乙丑九十八跡目百五十俵
寛延二年己巳五十八病死
井物山江寺住
同二年己巳年十一月廿九日

賢信　武者金十郎
母

妻　加賀守内有田源左衛門光忠女
天明五年乙巳十一月廿四日信濃家

通保　武者　駒次郎
寛政九年巳
寛女

妻　養父賢信女
天明二年寅年十二月七日無跡為信養子跡目百五十俵元高

寛延二年己巳十二月七日跡目百五十俵高十壱人扶持
宝暦二年壬申石河主税殿
明和五年戊子五月六日九十八才
法自源寺飛浄寺号
天明二年寅十一月二日死

出老中中列坐榊原治部少輔ヶ為ニ奉行ニ
同六年四月九日八死年

女子
母

養子通保事
寛政九年巳五月六日若年寄本田伯
濱之進養子ニ而後ニ松平能登守
政武生年ニ而五ツ年ニ

安通武者修理
寛 少将従
享 五位下大和守信庸
母 松平右京亮
妻 女

女子

今井左門信稙妻

女子
母今井左門信稙妻

水野金十郎

寿

明和七年庚寅五月
天明六年丙午十二月為養子領知百
俸ヶ為小普請組永井兵部少輔
寛政二年庚戌十二月三日ニ碓ヶ召河内守ニ
子和元年辛酉九月二十日ニ出羽守ニ
寿

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

武者作太郎

同

女子
同

源氏
武川
本國甲斐　紋花菱

行信　宮本次太夫
上總國住人　後出于東都

行直　武川喜兵衛
寛永六年己巳生
慶安四年辛卯　神田御殿御召出為御徒　賜四十俵三人扶持　後為
御徒目付　加三十俵　合賜七十俵三人扶持　後為奥方副番
延宝八年庚申　土翔為
桂昌院御三丸御廣敷添番　加卅俵　合賜百俵三人扶持　後為御用達
加百俵　而御廣敷番頭　加賜三百石　合五百石

宝永四年七月為十五歳組大久保玄蕃頭組
同三年四月廿五死年七十八葬于右内牧桃林寺
于雲徳院柏岸道樹居士

妻 武川五郎右衛門
母
寛永七年庚午生
神田神殿附近為市住焉十俵二人扶持後于番町定米十俵四

高覧
國隆 武川孫七郎
母
元禄元年辰年十九部屋住召出為十五俵二人扶持
同十三年庚辰十六為新御番寄多之殿組同年十月二
宝永二年酉四月十五日病三百石外二百石加増知同十石八行政官
為先手御列坐屋相換寄住ス
享保 年
為
御用人同年十二月六石
文文二年丁酉年十二十四歳仕
同四年己亥正廿九年七十五葬于右桃林寺
于雲照院観林妙宝大姉

妻
元禄六年癸酉年十七死于同寺
于雲照院観林妙宝大姉

行政　武川十左門
　母
宝永三年癸十二月廿二日於菊間
子住廿年乙卯九八九年　寿四等
于禅徳院世外安雄居士

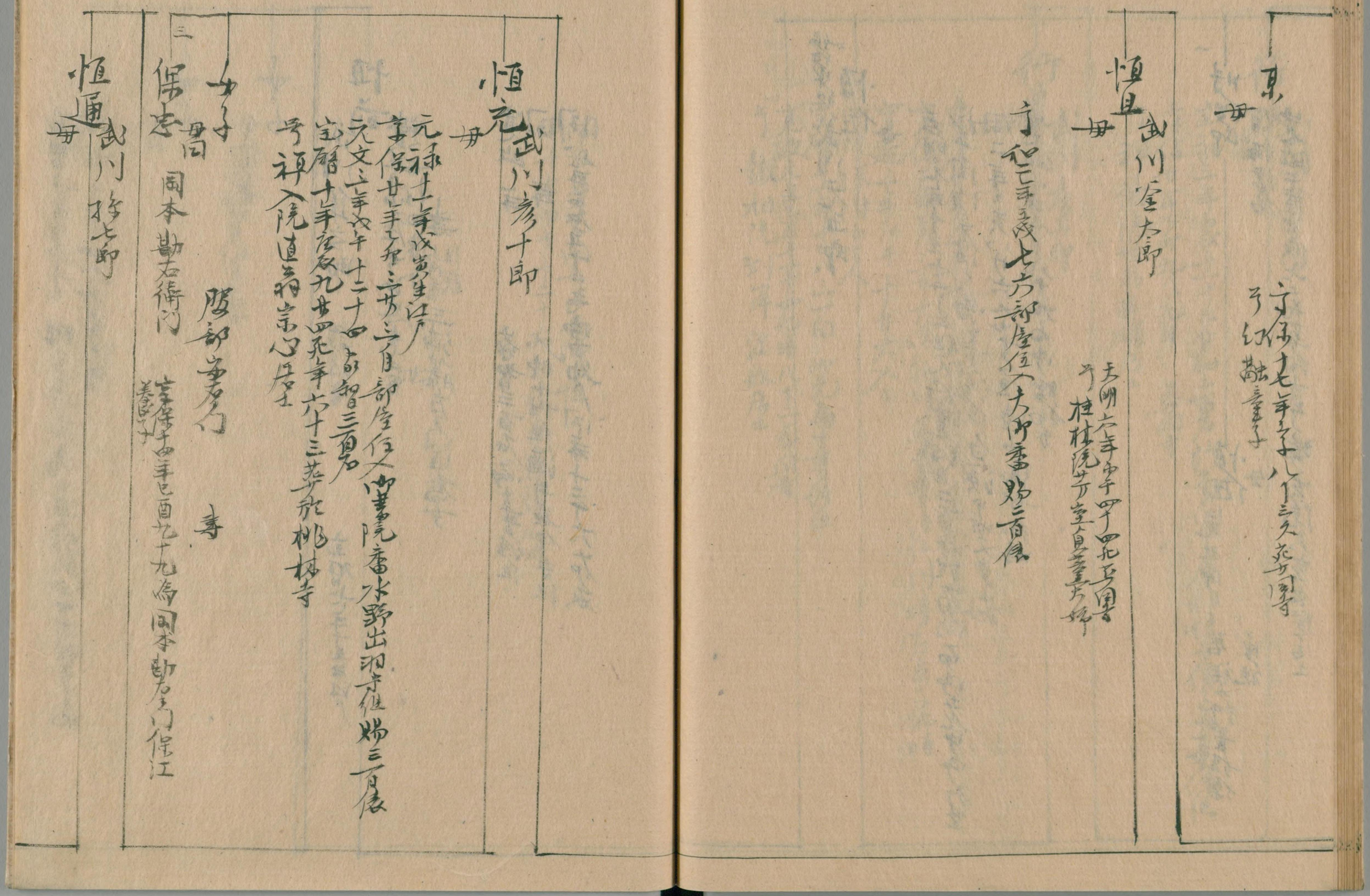
行豊　武川彦三郎
　母
子住廿年乙卯十廿八日廿五日
寛保二年戌二月廿六日病為
宝延二年己午十廿六人
于
右御所様御中十人
宝暦十二年壬八三回忌為
寛政元年酉十月廿二日
于鐵相院到岸浄秋居士

悟佐　武川元五郎
　母
天明元年辛丑十二月廿二日
松平周防守傳く為
同二年壬寅廿六日
寛政二年庚八十九日
于

時保郎
　信稲濃君
寛政二年庚戌七月廿四日于
于
天室良隆居士

悟佐　元五郎
　母
　　信稲濃君
　　承祀

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

宝暦十年庚辰十二月廿三日名為本誓請組田中出羽守与配
同年十二月廿四日御書院番

恒前武川隼之助　諏訪寺

女子　母浦藤助左衛門道秀女

女子　母同

女子　母浦藤助左衛門道秀女

寛政二年庚戌三月廿七日卒法名為本誓請組

同　年　母松田傳右衛門女　寿

同八年丙辰五月十二日御小性組酒井紀伊守与組

同九年丁巳閏七月廿七日卒法名為本誓請組

同十年戊午十二月十六日組替変改浅岳寺

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用